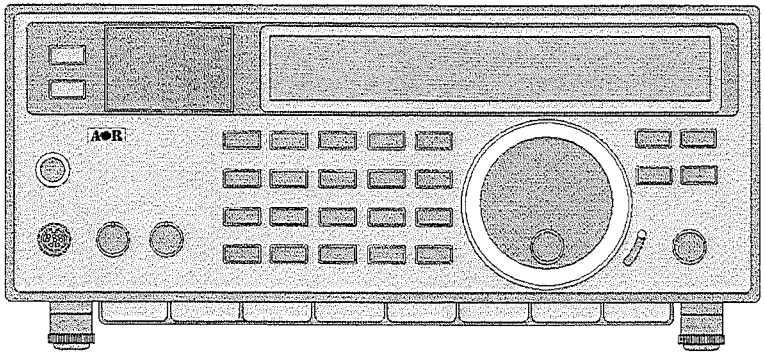
ＡＲ5000Ａ　と　ＡＲ5000Ａ+3　の違い



AR5000A とＡＲ5000Ａ+3 は３つの機能に違いがあります。ＡＲ5000Ａ+3 には以下の３つの内蔵されています。この各回路は工場出荷時の仕様となり、ＡＲ5000Ａを購入後にＡＲ5000Ａ+3へと変更できません。

株式会社　エーオーアール

ＡＦＣ（自動周波数制御）回路

低い周波数に比べ高い周波数や、衛星からの電波などはドップラー効果により、受信周波数が多少変化する場合があります。このようなときにＡＦＣ（自動周波数制御）回路をＯＮにすることによって、自動的に周波数の追従をします。

１ステップが 250Ｈｚで最大 100 ステップ（±25ｋＨｚ幅）まで追従します。ただし、受信周波数の中心の判断は±1.5ｋＨｚの幅で判断しますので、1ＫＨｚ台の周波数表示が“0”　にならない場合があります。あらかじめご了承ください。

ノイズブランカー回路

受信時に自動車、オートバイ等のイグニッションノイズのようなパルス性ノイズが多いときに使用します。

ＳＡＭ（AM同期検波）回路

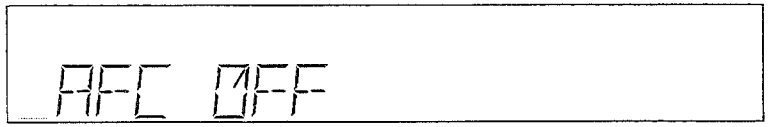
ＡＲ5000Ａの受信モードをＡＵＴＯモードからマニュアルモードに設定した場合は、ＦＭ、ＡＭ、ＬＳＢ、ＵＳＢ、ＣＷの順に呼び出し設定をします。このマニュアルモード設定においてＡＲ5000Ａ+3 の場合は、ＦＭ、ＡＭ、ＳＡＭ、ＳＡＬ、ＳＡＨ、ＬＳＢ、ＵＳＢ、ＣＷとなります。

ＡＭモードは自動追従なし、ＳＡＭモードはオフセット±0ｋＨｚオフセット、ＳＡＬモードでは-0.8ｋＨｚのオフセット、ＳＡＨモードでは+8ｋＨｚのオフセットでの自動追従を実現しています。

ＡＭモードにおいて、より快適に受信ができるようにと開発された機能です。

ＡＦＣ回路のＯＮ/ＯＦＦの操作　（初期設定はＯＦＦです）

1．「ＯＰＴＩＯＮ」を呼び出します。
　FUNC ＋ 0 キーを押します。表示が「ＡＦＣ　ＯＦＦ」となりＡＦＣの文字が点滅します。

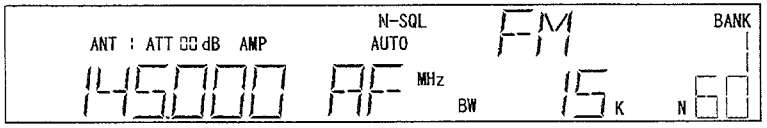


2．UP DOWNキーを使って、「ＡＦＣ　ON/OFF」を表示させます。
　上記操作でＡＦＣ　ＯＦＦと表示しない場合に UP DOWNキーを押してＡＦＣ　ＯＦＦを表示させてください。

3．サブダイアルを回して、「ＡＦＣ　ON」にします。
　サブダイアルを回すと、クリックごとにON、ＯＦＦを繰り返しますので　ON に設定します。

4．　最後にMHzキー（ＥＮＴ）を押して決定します。
　周波数表示部分の下３桁の部分が　ＡＦ　の表示となりＡＦＣ回路がONになっていることを表示します。

表示例



ノイズブランカー回路のＯＮ/ＯＦＦの操作　（初期設定はＯＦＦです）

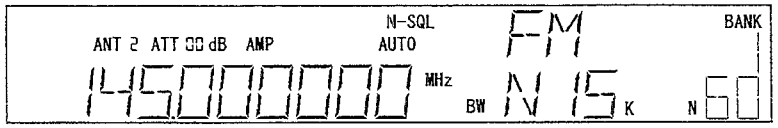
1．「ＯＰＴＩＯＮ」を呼び出します。
　FUNC ＋ 0 キーを押します。表示が「ＡＦＣ　ＯＦＦ」となりＡＦＣの文字が点滅します。

2．UP　DOWNキーを使って、「ＮＢ　ＯＦＦ」を表示させます。
　上記操作でＮＢ　ＯＦＦと表示しない場合に UP DOWNキーを押してＮＢ　ＯＦＦを表示させてください。

3．サブダイアルを回して、「ＮＢ　ON」にします。
　サブダイアルを回すと、クリックごとにON、ＯＦＦを繰り返しますので　ON　に設定します。

4．　最後にMHzキー（ＥＮＴ）を押して確定します。
　ＢＷ表示部分の先頭桁の部分が　Ｎ　の表示となりＮＢ回路がＯＮになっていることを表示します。ただし、ＩＦ-BWの設定が１１０Ｋと２２０Ｋの場合は、　Ｎ　表示はしません。

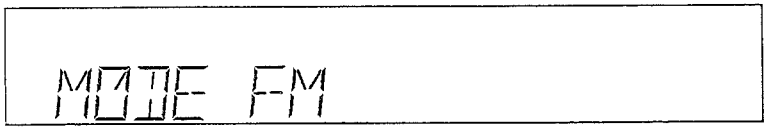
表示例



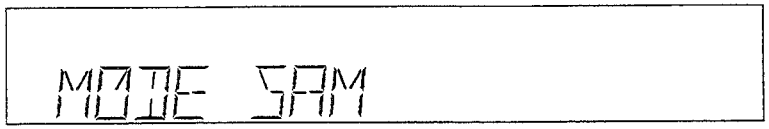
ＳＡＭ（ＡＭ同期検波）回路の操作

ＳＡＭ（ＡＭ同期検波）回路は、受信モードをＡＵＴＯモードからマニュアルでのモード選択時に呼び出して使用できます。

１．　MODEキーを押します。
表示パネルが　ＭＯＤＥ　ＦＭ　と表示し、ＭＯＤＥ部分が点滅しています。

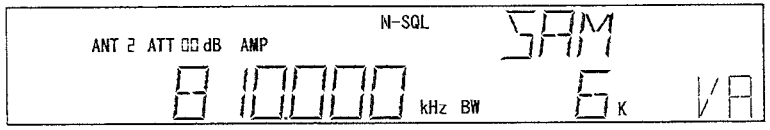


２．　サブダイアルを回して希望のモードを選択します。
サブダイアルを右に回すことでＦＭ、ＡＭ、ＳＡＭ、ＳＡＬ、ＳＡＨ、ＬＳＢ、ＵＳＢ、ＣＷとモードが順じ変わっていきます。ＣＷの次はＦＭになり繰り返されます。
サブダイアルの左回りは右周りの逆順に表示が変わります。



３．　MHzキー（ＥＮＴ）を押して決定します。
希望するモード状態で　MHzキー（ＥＮＴ）を押すことで決定されます。

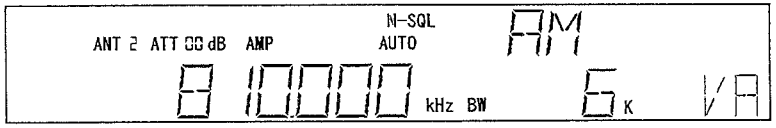
表示例



ＡＵＴＯモードをＯＮにする操作

上記でマニュアルでのモード選択をした後にＡＵＴＯモード状態にする。

１．　MODEキーを１秒押します。

この操作でマニュアルモード選択からＡＵＴＯモードになります。

表示例